

相談者の思いを受け止め、
思いを引き出す教育相談のために
～学校全体の教育相談力の向上を目指して～

研究概要版

令和7年度山形県教育センター長期研修生（前期6ヶ月）
山形県立楯岡特別支援学校寒河江校 笹原 祥子

概要

1 研究のねらい

2 研究の方法と結果

(1) アンケート調査 (2) 実践研究 (3) 聞き取り調査

3 見えてきた課題

4 まとめ、今後に向けて

Ⅰ 研究のねらい



教育相談の難しさ
ベテラン教員との差を実感

教員歴や経験によって、教育相談の進め方や捉え方
その背景にある意識に**差**がある



この**差**を埋める取り組みが
学校全体の教育相談力の向上につながる？

★本研究における教育相談の捉え方

「学校における教育相談は、決して特定の教員が行う性質のものではなく、相談室だけで行われるものでもない。(中略)したがって、教育相談は、学校の教育活動全体を通じて、また全ての教員がさまざまな時と場所において、適切に行うことが必要である。」

教育相談等に関する調査研究協力者会議

『児童生徒の教育相談の充実について～生き生きとした子どもを育てる相談体制づくり～(報告)』より



教育相談は、特定の場所や形式に限定されない、学校生活全般に及ぶ広範な活動

概要

1 研究のねらい

2 研究の方法と結果

(1) アンケート調査 (2) 実践研究 (3) 聞き取り調査

3 見えてきた課題

4 まとめ、今後に向けて

2 研究の方法と結果

(1) アンケート調査

- ・実態の把握
- ・課題の抽出

(2) 実践研究

- ・アンケート結果を反映した研修会の実施
- ・振り返り、効果の検証

(3) 聞き取り調査

- ・各校の実態の把握
- ・(1)(2)以外の視点から掘り下げ

2 研究の方法と結果

(1) アンケート調査

対象：村山地区 特別支援学校9校 小学部教員

対象選定の理由：「児童生徒本人との教育相談より

本人に一番近い存在の保護者との相談の機会が多い」

という所属校と共通した条件で回答の集計、分析を行うため

2 研究の方法と結果

(1) アンケート調査

- ①教育相談の中で困難を感じる場面
- ②教育相談の中で手応えを感じる場面
- ③相談の場面で心掛けていること、その理由
- ④教育相談をテーマとした校内研修の有無、研修の形態
- ⑤校内研修の内容
- ⑥校内研修で学んでみたい内容

これらの項目は教員歴によって
どのような違いが見られるのか？

2 研究の方法と結果

(1) アンケート調査

教員歴は、山形県教員指標に基づき

～3年目（始発期） 4～10年目（成長期）

11～20年目（充実期） 21年目～（組織運営期） の4段階に分類

③の項目では、教育相談のプロセスを以下のように5つのフェーズに段階化し、回答を分類した。



参考：『先生のための保護者相談ハンドブック ー配慮を要する子どもの保護者とつながる3つの技術』

2 研究の方法と結果

(1) アンケート調査項目①について

質問項目①

保護者との教育相談で「困ったな」「難しいな」と感じるのは、どんなときですか。

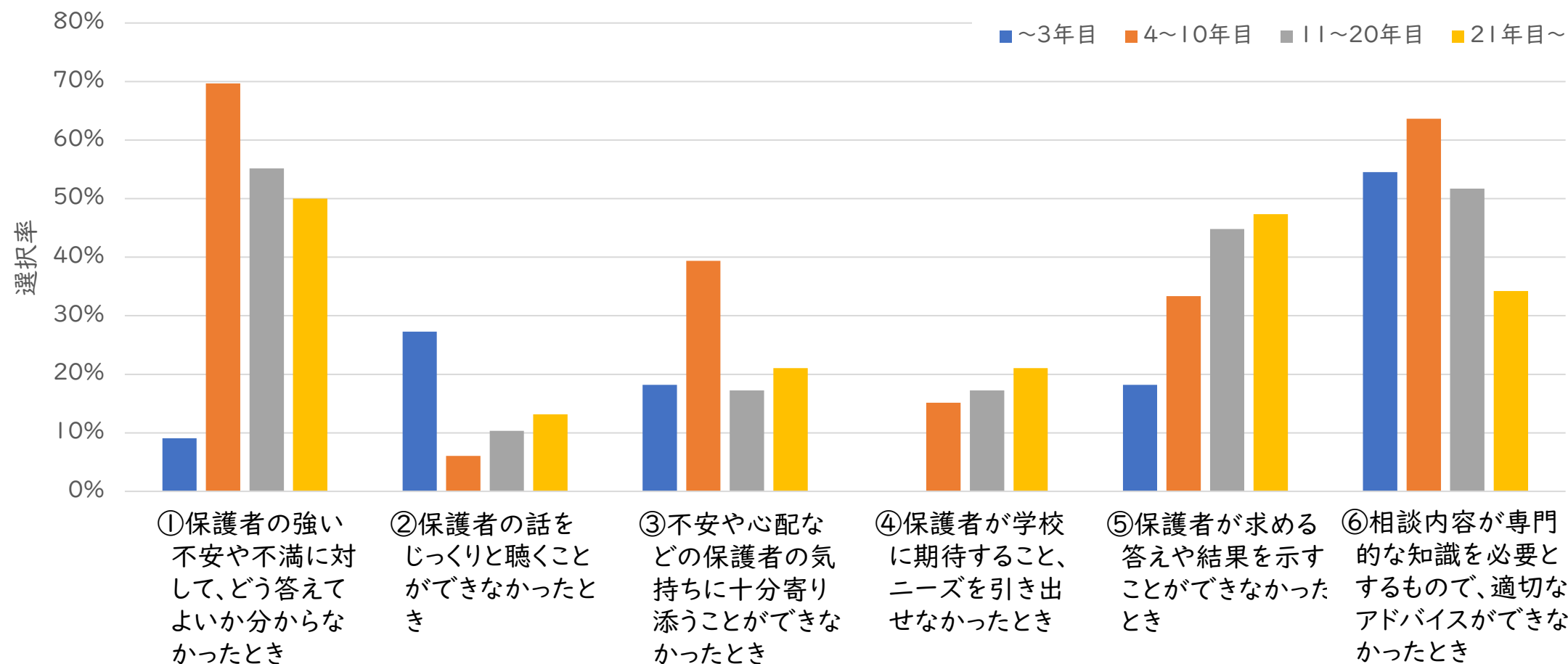
選択肢

- ①保護者の強い不安や不満に対して、どう答えてよいか分からなかったとき
- ②保護者の話をじっくりと聴くことができなかったとき
- ③不安や心配などの保護者の気持ちに十分寄り添うことができなかったとき
- ④保護者が学校に期待すること、ニーズを引き出せなかったとき
- ⑤保護者が求める答えや結果を示すことができなかったとき
- ⑥相談内容が専門的な知識を必要とするもので、適切なアドバイスができなかったとき

2 研究の方法と結果

(1) アンケート調査項目①について

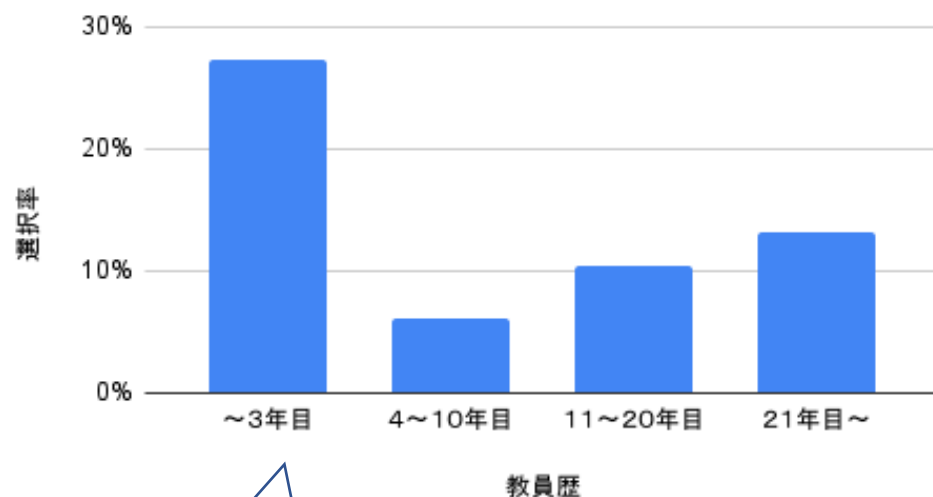
項目①保護者との教育相談で「困ったな」「難しいな」と感じる場面



2 研究の方法と結果

(1) アンケート調査項目①について

保護者の話をじっくりと聴くことができなかったとき

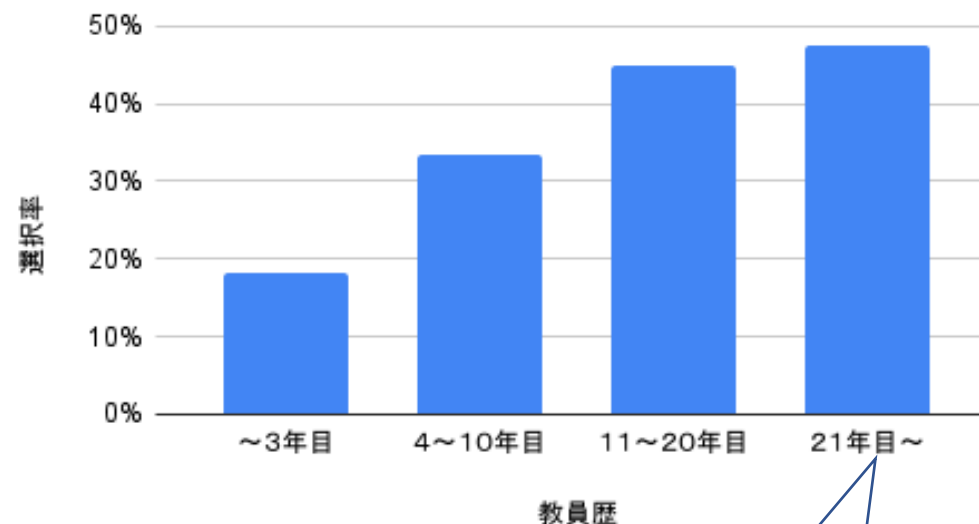


~3年目教員が高い選択率。

→「つながる」段階

教育相談の基本姿勢について課題感を抱えているのでは？

保護者が求める答えや結果を示すことができなかったとき



経験年数が長いほど選択率が高くなる傾向。

→「引き出す」「つなげる」段階

すぐに答えを提示できない複雑な問題や、多様なニーズに直面する機会が増えているのでは？

2 研究の方法と結果

(1) アンケート調査項目⑥について

質問項目⑥

教育相談がテーマとなる研修として学びたい内容を選択してください。

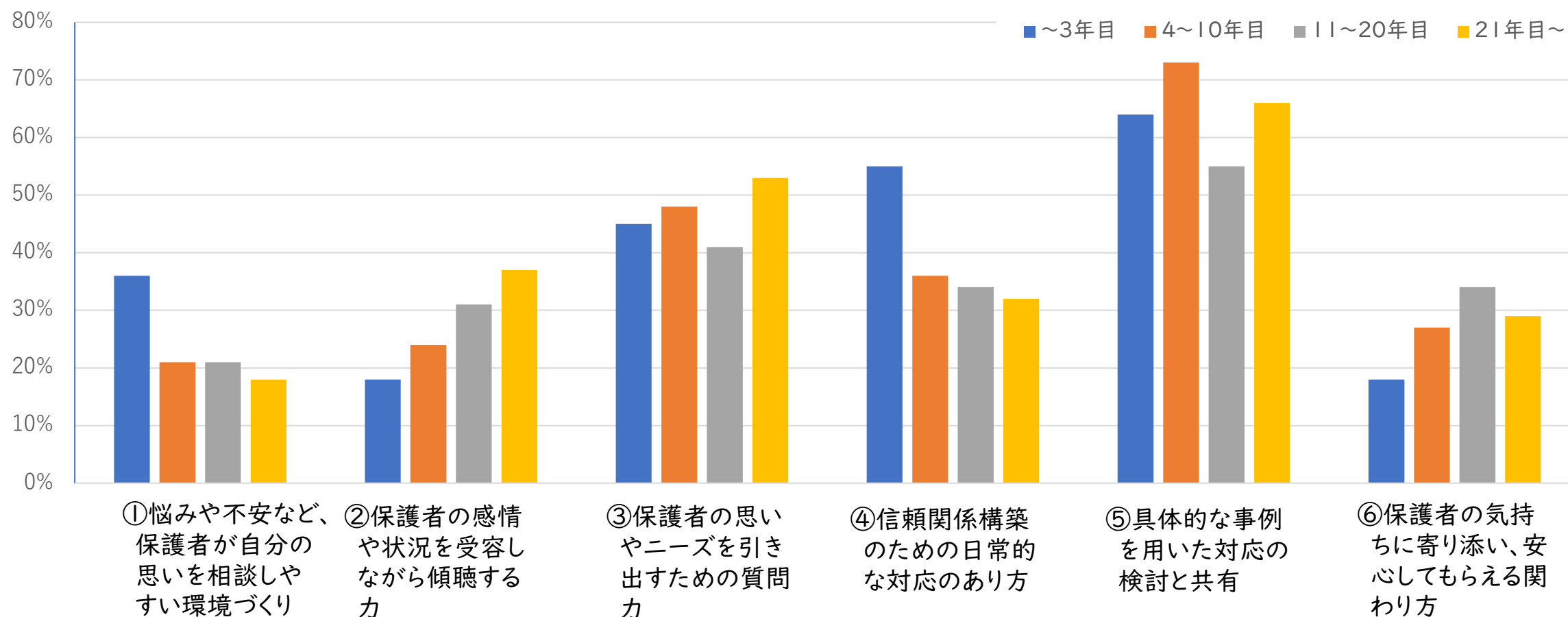
選択肢

- ①悩みや不安など、保護者が自分の思いを相談しやすい環境づくり
- ②保護者の感情や状況を受容しながら傾聴する力
- ③保護者の思いやニーズを引き出すための質問力
- ④信頼関係構築のための日常的な対応のあり方
- ⑤具体的な事例を用いた対応の検討と共有
- ⑥保護者の気持ちに寄り添い、安心してもらえる関わり方

2 研究の方法と結果

(1) アンケート調査項目⑥について

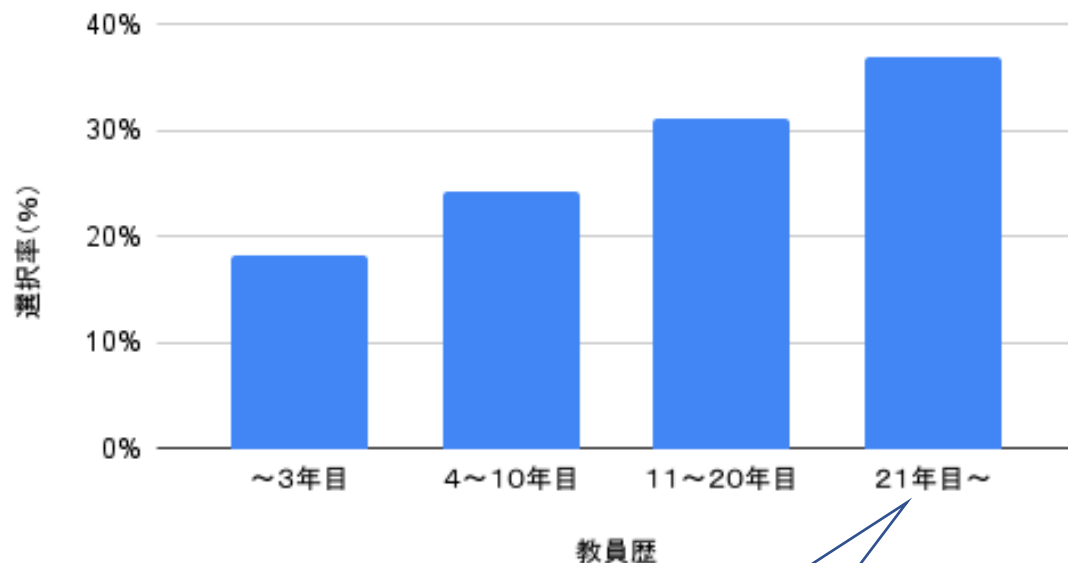
項目⑥教育相談がテーマとなる研修として学びたい内容



2 研究の方法と結果

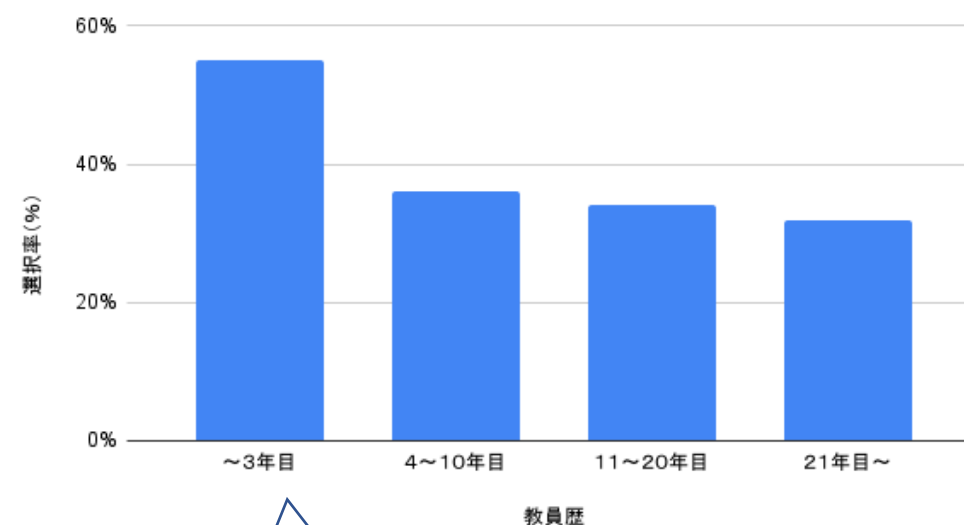
(1) アンケート調査項目⑥について

保護者の感情や状況を受容しながら傾聴する力



21年目~教員が最も高い数値を示している。
→経験を重ねることで「傾聴」の見え方、捉え方が変化するのでは？

信頼関係構築のための日常的な対応のあり方



~3年目教員が最も高い選択率を示している。
→保護者との信頼関係構築に難しさや困りを感じているのでは？

2 研究の方法と結果

(1) アンケート調査項目⑥について

教育相談に関する課題感や意識、学びを求める内容には
教員歴によって異なる傾向が見られた



「教員歴や経験による差」は
「もっている視点、物事の捉え方、見取り方、アセスメントの差」と言える

教員歴や経験による差をプラスに捉え、
それぞれが感じている課題や持っている視点について共有する

概要

1 研究のねらい

2 研究の方法と結果

(1) アンケート調査 (2) 実践研究 (3) 聞き取り調査

3 見えてきた課題

4 まとめ、今後に向けて

2 研究の方法と結果

(2) 実践研究

◎教育相談を自分事として捉え、学校の中で温度差が出ないように

◎誰と話しても「相談して良かった」と思ってもらえるように



- ・相談者の思いを受け止める…保護者の思い「聴いてくれて嬉しいな」
- ・相談者の思いを引き出す…保護者の思い「次はこれに取り組んでみようかな」
「私は本当はこう思っていたんだな」

教育相談に関する基礎知識や心構えなどを学ぶとともに、
お互いの経験からの学びを共有することをねらい
2回の研修会を計画し、実施する

2 研究の方法と結果

(2) 実践研究

「知識技能の習得だけではなく、教師としてふさわしい資質能力を広く身に付けていくためには、…(中略)…**他者との対話や振り返り等の機会を教師の学びにおいて確保する**など、協働的な教師の学びも重視される必要がある。こうした機会としては、例えば各学校において行われる校内研修や授業研究など、**「現場の経験」を含む学びが、同僚との学び合いなどを含む場として重要**であると考えられる。」

文部科学省 中央教育審議会

「「令和の日本型学校教育」を担う新たな教師の学びの姿の実現に向けて」より



「ともに学び合う場」が必要
同僚との対話から得られる学びがある

2 研究の方法と結果

(2) 実践研究

★学校での取り組み「さがえっこはぐくみサロン」

- ・希望する保護者に対して、個別面談や日々の送迎時では伝えきれない想いや悩みについて教員と話をする場

学校としてのねらい

声を掛けやすい雰囲気作りと保護者の話を引き出す会話のポイントを日頃から気に留めておくことを職員間で意識する。

2 研究の方法と結果

(2) 実践研究

第1回研修会

ねらい: **教育相談を自分事として捉え**、研修会の中で互いの良さを学び合い、集団全体の教育相談力の向上を目指す。また、7月に行われるサロンに向けて基礎的事項を確認し、よりよい対話に繋げる。

- 講義中心の形式
- カウンセリング的手法を取り入れた教育相談の基礎知識を共有

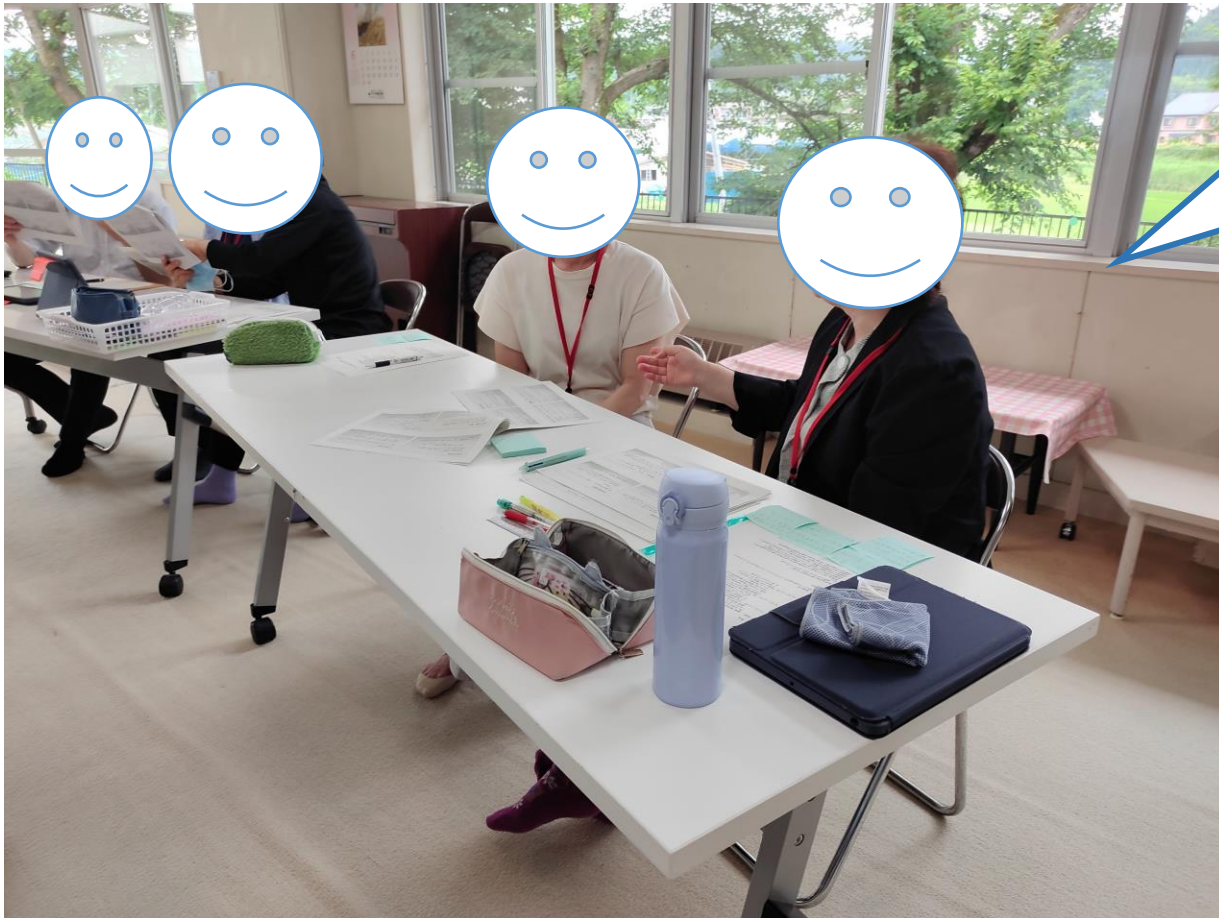
- 演習を取り入れ、内容や結果を全員で共有する時間を設定
=学び合い

目指す姿: ・保護者の**思いを引き出す問い掛け方について知る**ことができる。
・保護者との信頼関係構築のために日頃から実践できるヒントを見つけることができる。

- これまでの取り組みをカウンセリング的視点から再評価し、価値付けし合う場 =学び合い

2 研究の方法と結果

(2) 実践研究①



解決志向アプローチの中の「リソース探し」
昨年度からの学校研究とも共通する内容で、
見える実態だけではなくその背景に目を向けながら、
グループでリソースを探そうとする姿が見られた。
「それもあるね。」「そういうとらえ方もあるのか。」

●演習

◇4年生女子Aさんの具体的な事例

明瞭な発語がなく、身振りや指さして自分の思いや要求を伝える。教師の指示をよく聞いていて、活動の移り変わりにスムーズに対応する。友達との関わりが好きで、特に同性の友達や下級生には自分から優しく関わろうとするが、距離感が適切でないことがある。走ることや本を読むことが好きだが、途中で周りの友達が活動する様子を眺めていることが多い。一点を注視していることが難しく、周囲の様子を気にするため活動に集中できない。協力的な家庭で、持ち物や連絡などは滞らない。母親は、「言うことを聞かず、手を焼いている」とつぶやいていた。

☆Aさんがもっているリソースは何でしょうか。

「もっているもの」→「できること」「得意なこと」「好きなこと」…

この保護者や子どもには、解決を作るためのリソースが必ずある！と信じる

2 研究の方法と結果

(2) 実践研究①

「コンプリメント」

「つながる」の段階から「引き出す」につなげるまで、
自分が大事にしていることを全体で共有。

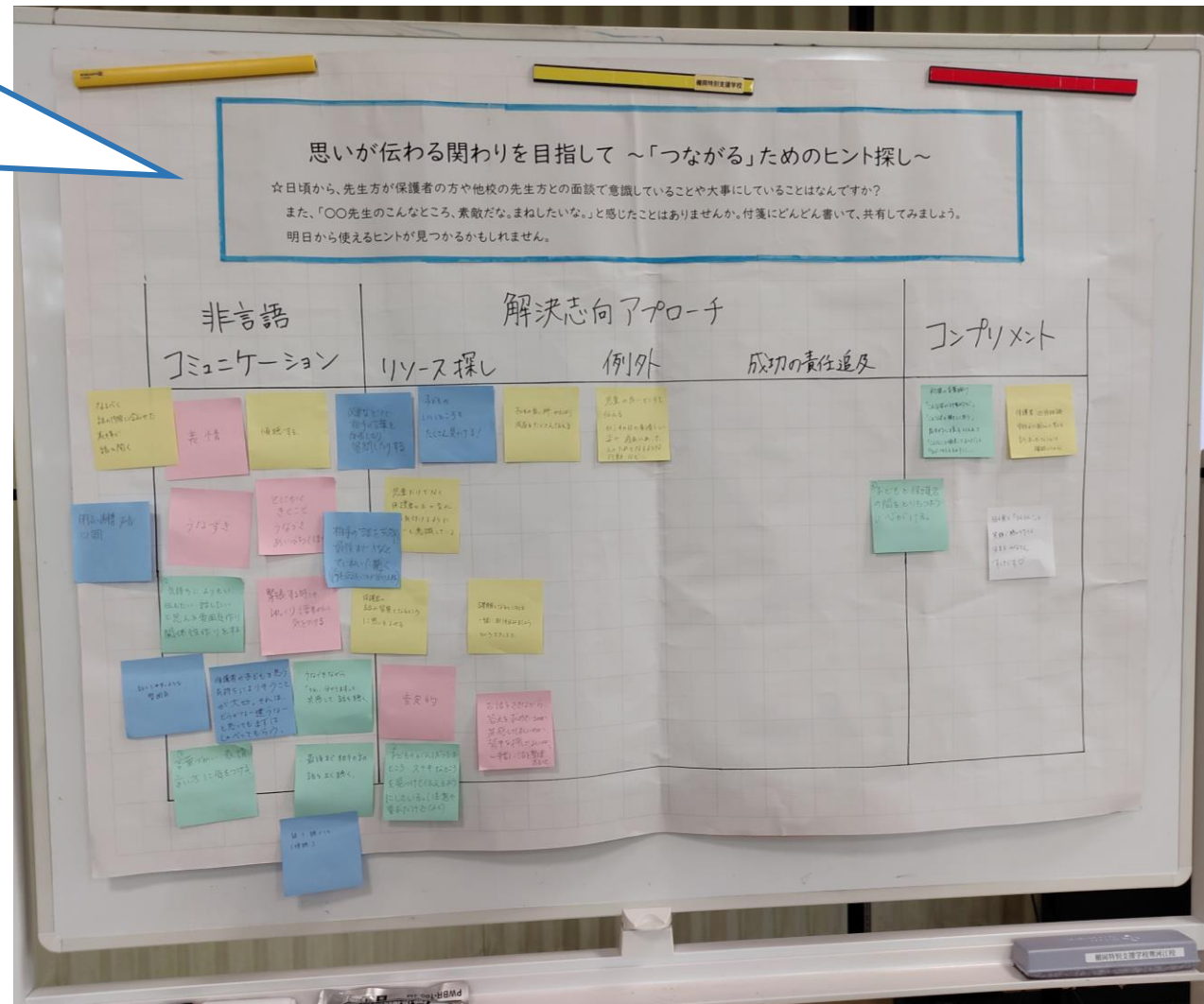
「ああ、これ私もやってる」

「これいいですね。できるようになりたいな。」と
自然と自他の価値付けを行っていた。

いいところを伝えるとき、気を付けていることは？

児童のいいところや保護者の努力など、「伝えたいな」と感じることは日々たくさんあるかと思います。

直接の対話、電話や連絡帳など様々な手段がある中で、どのようなことに気を付けながら伝えていますか？



2 研究の方法と結果

(2) 実践研究①

研修会①後アンケートより(◎よかった点 ★課題、改善点)

◎教育相談は自分には関係ないと思っていたが、誰しもの関わるものなんだと実感した。

◎背景を丁寧に探るという、学校研究と共通する考え方があった。

→教育相談に関する意識の変容◎「他人事」から「自分事」に自分たちが取り組んできたことの価値付け◎

★実際に相談にあたるペアで演習できると、イメージが持ちやすくなると思う。

★実際に相談をどのように進めるか知りたい。

☆保護者との対話の流れや相手の考え方などに気を配れるか心配。初めて取り組むので不安。

→・第1回の基礎知識の確認に加えて、相談の進め方について触れる
・より実際の場面に近付けた演習を取り入れ、不安感の軽減を図る

2 研究の方法と結果

(2) 実践研究②

第2回研修会

ねらい: サロンに向けて、担当する教員がより安心して気持ちで相談に取り組み、保護者が「話してよかった」と思えるような相談を目指して知識の習得と演習を行う。

目指す姿: ・保護者の思いを受け止め、引き出しながら話をするための相談の進め方について知ることができる。
・ロールプレイを通して、「こんなときどうする？」を考えることができる。

- 第1回研修会での学びを確認
- 教育相談のとらえ方や基本的な進め方を共通理解

- 実践に生かしやすいように、実際に相談を行うペアと内容で演習
- ロールプレイ後はそれぞれの役割からフィードバックを受ける時間

=学び合い

2 研究の方法と結果

(2) 実践研究②

★非言語コミュニケーション

★解決志向アプローチ

★「つながる」「引き出す」「つなげる」の視点

意識しながらできましたか？

振り返りの視点

観察者は研修会で学んだ視点から
ロールプレイを見て記録する
印象に残った様子や良かった姿をとらえ、
フィードバックで共有できるようにする



役割を変えて取り組むことで、
お互いに関わり方や対応の仕方を見
て学ぶことができる

2 研究の方法と結果

(2) 実践研究②

研修会②後アンケートの内容(◎よかった点 ★課題、改善点)

◎教育相談に今まで携わってこなかったため、分かりやすい内容でよかった。**ロールプレイ**をすることで、**イメージを掴みやすかった**。

◎教育相談について固く捉えすぎていたことに気付けた。

★まだ**完全に理解しているとは言えない**ので、資料を見返して自分のものにしていきたいと思う。

★サロンの目的と研修の内容にずれがあり、**実践に活かしにくかった**。

2 研究の方法と結果

(2) 実践研究②

全2回の研修会を終えた感想より

- ◎教育相談は**その場で解決することがすべてではない**ということを学んだ。
- ◎保護者が教員のどんなところを見て話を聴いたり、気持ちを動かしたり
するのかを学べた。

2 研究の方法と結果

(2) 実践研究②

はぐくみサロン実施後の教員の感想（一部抜粋）

- ◎応えることができたかは正直分らないが、このような時間を保護者と共有できたことはよかったと思う。
- ◎的確に答えることができなかったが、引き出すことはできたかもしれない。
- ◎相談者本人が解決の糸口をつかめるように心がけられた。

→意識の変容が見られた。

1回目研修会後よりも具体的に、自分の良さや頑張りが見えるようになった

「思いを受け止める」「思いを引き出す」を意識した関わり◎

概要

1 研究のねらい

2 研究の方法と結果

(1) アンケート調査 (2) 実践研究 (3) 聞き取り調査

3 見えてきた課題

4 まとめ、今後に向けて

2 研究の方法

(3) 聞き取り調査

校内研修の焦点：教育相談の捉え方を共通理解し、「助言、解決」の前段階を重要視。巡回相談において必要とされていることや実態についての視点をもつために巡回相談についての聞き取り調査を実施した

対象：村山地区特別支援学校のうち大規模校3校

対象選定の理由

- ・職員数が多く、巡回相談を担当する職員も多いため
- ・地域からの相談をコンスタントに受けており、巡回相談に関する体制がある程度整っていることが予想されるため

2 研究の方法と結果

(3) 聞き取り調査

主な質問内容

- ・現在の巡回相談の依頼状況
- ・校内における巡回相談の体制づくり
- ・巡回相談担当者としての思い

2 研究の方法と結果

(3) 聞き取り調査

聞き取り調査の結果

- ・相談の実態は学校によって異なるが、相談依頼がある。
- ・事前打ち合わせやケース会の開催が求められているが、学校の状況によって困難な場合が多い。
- ・2名体制での学校訪問や情報の聞き取りシートなど、経験の浅い教員をサポートする体制が作られていた。
- ・相談担当者として心掛けていることとして、「相談者や対象児の良さや頑張りを価値付ける関わり」という内容が3校で共通していた。

概要

1 研究のねらい

2 研究の方法と結果

(1) アンケート調査 (2) 実践研究 (3) 聞き取り調査

3 見えてきた課題

4 まとめ、今後に向けて

3 見えてきた課題

(1) アンケート調査について

教育相談に関する課題感や意識、学びを求める内容には
教員歴によって異なる傾向が見られた



「教員歴や経験による差」は
「もっている視点、物事の捉え方、見取り方、アセスメントの差」と言える

経験豊富な教員が
経験の浅い教員に教える
一方向な学びの形

転換

互いの強みや工夫などの
良さを共有し、補い合う
双方向な学びの形

3 見えてきた課題

(2) 実践研究

「教員歴や経験の異なる教員同士が
自らの経験や視点を持ち寄って学び合う場」としての校内研修会の実施



- 教育相談を「自分事」として捉え直し、共通理解を図る
 - 自分自身や他の教員の取り組みを価値付ける
 - 他の教員のよい関わりや知識を見て吸収し、学ぶ

3 見えてきた課題

(2) 実践研究

研修の重点

- ・その時間での解決を目指さず、「相談者本人の思いを受け止め、引き出しながら対話を進めること」
(問い掛けによって相談者の言葉から引き出していく経験をすることを重視)



「こんなことで困っているけれど、何をしたらよいか」
アイデアを求める保護者が多かった

実際の保護者の困り感や思いに寄り添うためには、
「支援のアイデアを複数提示し、助言を行う」巡回相談的な視点も必要

3 見えてきた課題

(3) 聞き取り調査

巡回相談において求められていたのは、

- ・支援のアイデアを複数提示する提案力と専門性
- ・依頼先の頑張りやよさを認め、価値付ける関わり



日々の取り組みとその意図を言語化すること
教員一人一人のもつ専門性や経験を共有し、学ぶこと

概要

1 研究のねらい

2 研究の方法と結果

(1) アンケート調査 (2) 実践研究 (3) 聞き取り調査

3 見えてきた課題

4 まとめ、今後に向けて

4 まとめ、今後に向けて

教育相談を「自分事」と捉え、
学校全体でサポートする姿勢

教育相談の
捉え方を
共通理解

継続して取り組み、
全員で学びを積み上げていく

教員の専門性や経験の共有
日々の支援の意図の言語化

巡回相談の
視点

学校全体の
教育相談力の
向上

「ベテランが若手に教える」
一方的な学びの形からの脱却
相互に補い合う学び

経験と学びの
共有
補い合い

4 まとめ、今後に向けて

今回の研究で分かったこと

現在取り組んでいることに焦点
日々の実践を価値付けし合う関わり

継続して「学び合い」を行っていくことの大切さ

「研修会」という形にこだわらず、継続できる小さな取り組みが求められる

巡回相談後のケース会に、
全員で取り組んでみる？

実態の情報共有も兼ねて、
児童のケース会を定期的に行う？



相談を担当した先生から、
気付いたことを話してもらう？

学部会等の会議の中で、
3分程度で「最近の相談対応
での気づき」をペアトークする？

Slackやチャットを使って、
日頃の疑問を短く意見交換？

参考文献

- ・文部科学省 教育相談等に関する調査研究協力者会議(2009)
『児童生徒の教育相談の充実について—生き生きとした子どもを育てる相談体制づくり—(報告)』
- ・文部科学省(2022)『生徒指導提要』
- ・文部科学省 中央教育審議会(2021)
『「令和の日本型学校教育」を担う新たな教師の学びの姿の実現に向けて』
- ・大石幸二(2022)
『先生のための保護者相談ハンドブック—配慮を要する子どもの保護者とつながる3つの技術』学苑社
- ・桜井美加・齋藤ユリ・森平直子(2016)『教育相談ワークブック—子どもをはぐくむ人になるために【新版】』
北樹出版
- ・生井光治(2025)『保護者対応 信頼はぐくむ教師の「聞く力」』学芸みらい社
- ・浜内彩乃(2024)『ステップアップカウンセリングスキル集—今さら聞けない12の基礎技法』誠信書房
- ・森俊夫(2001)『“問題行動の意味”にこだわるより“解決志向”で行こう』ほんの森出版



ご清聴ありがとうございました。